

児童青年期精神医学

1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	3 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	4 人	

2 教員の異動状況

- 杉山 登志郎（特任教授）（H22.10.1～現職）
 山村 淳一（特任助教）（H23.4.1～現職）
 野村 和代（特任助教）（H23.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	11 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	29.08	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	2 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	16 編	(16 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5 編	(5 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 杉山登志郎、原仁、山根希代子、藤坂龍司、野邑健二、今本繁、富永亜由美、並木典子、明翫光宜、野村香代、天野美鈴、有光興記、田島志保、加藤康子、藤田佑里子：早期療育の成果に関する前方向視的研究。乳幼児医学・心理学研究,20(2),115-125,2011

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Iwata K, Matsuzaki H, Miyachi T, Shimmura C, Suda S, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Suzuki K, Iwata Y, Nakamura K, Tsujii M, Sugiyama T, Sato K, Mori N.: Investigation of the serum levels of anterior pituitary hormones in male children with autism. Mol Autism. ,19 ; 2:16,2011.
2. Thanseem I, Nakamura K, Anitha A, Suda S, Yamada K, Iwayama Y, Toyota T, Tsujii M, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Iwata K, Sugiyama T, Yoshikawa T, Mori N.: Association of transcription factor gene LMX1B with autism. PLoS One. , 6(8):e23738,2011.
3. Suzuki K, Matsuzaki H, Iwata K, Kamenno Y, Shimmura C, Kawai S, Yoshihara Y, Wakuda T, Takebayashi K, Takagai S, Matsumoto K, Tsuchiya KJ, Iwata Y, Nakamura K, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N.: Plasma cytokine profiles in subjects with high-functioning autism spectrum disorders. , 6(5) : e20470,2011.
4. Suzuki K, Sugihara G, Ouchi Y, Nakamura K, Tsujii M, Futatsubashi M, Iwata Y, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Takebayashi K, Wakuda T, Yoshihara Y, Suda S, Kikuchi M, Takei N, Sugiyama T, Irie T, Mori N.: Reduced acetylcholinesterase activity in the fusiform gyrus in adults with autism spectrum disorders. Arch Gen Psychiatry. , 68(3):306-313,2011.
5. Nakamura K, Iwata Y, Anitha A, Miyachi T, Toyota T, Yamada S, Tsujii M, Tsuchiya KJ, Iwayama Y, Yamada K, Hattori E, Matsuzaki H, Matsumoto K, Suzuki K, Suda S, Takebayashi K, Takei N, Ichikawa H, Sugiyama T, Yoshikawa T, Mori N.: Replication study of Japanese cohorts supports the role of STX1A in autism susceptibility. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. , 35(2): 454-458,2011.

インパクトファクターの小計 [22.481]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Egawa J, Watanabe Y, Nunokawa A, Endo T, Kaneko N, Tamura R, Sugiyama T, Someya T. : A detailed association analysis between the tryptophan hydroxylase 2 (TPH2) gene and autism spectrum disorders in a Japanese population. Psychiatry Res. Epub ahead of print.2012
2. Marui T, Funatogawa I, Koishi S, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Jinde S, Nishida H, Sugiyama T, Kasai K, Watanabe K, Kano Y, Kato N.: The NADH-ubiquinone oxidoreductase 1 alpha subcomplex 5 (NDUFA5) gene variants are associated with autism. Acta Psychiatr Scand. , 123(2):118-124,2011.
3. Kawakami C, Ohnishi M, Sugiyama T, Someki F, Nakamura K, Tujii M.: The risk factors for criminal behaviour in high-functioning autism spectrum disorders (HFASDs): A comparison of childhood

adversities between individuals with HFASDs who exhibit criminal behaviour and those with HFASD and no criminal histories. *Research in Autism Spectrum Disorders*, 5(1):949-957,2011.

4. 小野真樹、杉山登志郎、栗山貴久子、東誠、浦野葉子: 高機能広汎性発達障害における同胞併発例の検討 攻撃性とその相互作用について. *小児の精神と神経*, 51(3), 217-230,2011.
5. 森本武志、杉山登志郎、東 誠: 広汎性発達障害における双極性障害の臨床的検討. *小児の精神と神経*, 52(1),35-44,2012.

インパクトファクターの小計

[6.598]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 井上 雅彦, 岡田 涼, 野村和代, 上田暁史, 安達潤, 辻井正次, 大塚晃, 市川宏信: 知的障害者入所更生施設利用者における強度行動障害とその問題行動の特性に関する分析, *精神医学* 53(7), 639-645,2011.
2. 松尾理沙, 野村和代, 井上雅彦: 発達障害児の親を対象としたPTの実態と実施者の抱える課題に関する調査, *小児の精神と神経* 52(1), 53-59,2011.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 杉山登志郎: そだちの凸凹 (発達障害) とそだちの不全 (子ども虐待). *日本小児看護学会誌*,20(3),103-107,2011.
2. 杉山登志郎: 【子どもの虐待と脳の発達】子ども虐待と子どもの発達.子どものこころと脳の発達,2(1),5-13,2011.
3. 杉山登志郎: 【震災の中で生きる子ども】何ができるか 子どもにおける大震災の後遺症を減らすための対応, *精神科治療学*, 25(12), 1639-1645,2011.
4. 杉山登志郎: 【アスペルガー症候群のいま】アスペルガー症候群の最新理解 アスペルガー症候群再考. *そだちの科学*,17,2-11,2011.
5. 杉山登志郎: 【自閉症スペクトラムの生物学】自閉症スペクトラムとは. *分子精神医学*, 11(4),264-268,2011.
6. 杉山登志郎: 【性的虐待】性的虐待の実態とケア. *子どもの虐待とネグレクト*,13(2), 209-215,2011.
7. 杉山登志郎: 【医学的観点からみた子ども虐待～子ども虐待を理解し、実践的なかわりをめざして～】虐待の発見 虐待による精神疾患の特徴. *チャイルドヘルス*, 14(9),1532-1535,2011.
8. 杉山登志郎: 子ども虐待と精神医学. *児童青年精神医学とその近接領域*, 52(3), 250-263,2011.
9. 杉山登志郎: 【貧困とそだち】子どもの貧困とそだち 日本社会的養護と子どもの貧しさ. *そだちの科学*, 16, 8-14,2011.
10. 杉山登志郎: 広汎性発達障害疑い例へのプライマリケアでの対応. *日本医事新法*,4543, 59-60,2011.
11. 杉山登志郎: 施設保護を受けた子のトラウマ】発達障害とアタッチメント障害. *トラウマティ*

ック・ストレス, 9(1), 25-31, 2011.

- 12. 杉山登志郎: 子ども虐待 子ども命とところを守る.心と社会, 42(1),12-15,2011.
- 13. 杉山登志郎, 山村淳一, 野村和代, 土屋賢治, 酒井佐枝子: 子どもにおける大震災の後遺症を減らすための対応, 発達 128(32)29-35, 2011.
- 14. 杉山登志郎: 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) 第5章 子どもPTSD 子ども虐待のトラウマ. 最新医学社, 70, 193-199, 2011

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

- 1. 海野千畝子, 小山内文, 杉山登志郎: 心療科病棟における性的安全の文化の創造に関する研究,(その2) 性的虐待対応看護師チーム (SAR) による性的安全プログラム. 小児の精神と神経, 51(1), 51-58, 2011.
- 2. 海野千畝子, 藤田三樹, 杉山登志郎: 心療科病棟における性的安全の文化創造に関する研究,(その1) コントロールルーム(ムーン)の設立. 小児の精神と神経, 51(1), 43-49, 2011.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- 1. 杉山登志郎: 発達障害のいま、講談社現代新書、2011.
- 2. 杉山登志郎: 杉山登志郎著作集①自閉症の精神病理と治療、日本評論社、2011.
- 3. 杉山登志郎: 杉山登志郎著作集②軽度発達障害への道、日本評論社、2011.
- 4. 杉山登志郎: 杉山登志郎著作集③児童青年精神医学の新世紀、日本評論社、2011.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

- 1. 井上雅彦, 野村和代, 松尾理沙, 秦基子, 宮崎光明, 原口英之, 大久保賢一, 自立に関する生活スキル (服装) ,地域で活動するためのスキル (買い物) ,自閉症の子どものための ABA 基本プログラム 家庭で無理なく楽しくできる生活・学習課題 36 共著 学研, pp56-67, pp162-168, 2011.

4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	2 件	(90 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	1 件	(50 万円)

(5) 受託研究または共同研究	0件	(0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件	(0万円)

(2) 厚生労働科学研究費

1. 杉山登志郎(分担者) 障害者対策総合研究事業「発達障害者に対する長期的な追跡調査を踏まえ、幼児期から成人期に至る診断等の指針を開発する研究」「発達障害の早期介入に関する前方向視的研究」「高機能広汎性発達障害に成人におけるミラーニューロン機能に関する画像研究」 60万円(継続) 代表者 福島大学大学院人間発達文化研究科 教授 内山登紀夫
2. 杉山登志郎(分担者) 障害者対策総合研究事業(身体・知的等障害分野)「成人期注意欠陥・多動性障害の疫学、診断、治療法に関する研究」「子ども虐待と成人期のADHD」「成人期のADHD」 30万円(継続) 代表者 浜松医科大学医学部精神神経科 准教授 中村和彦

(4) 財団助成金

1. 山村淳一(代表者) 財団法人 明治安田こころの健康財団 研究助成 「子ども虐待に伴うPTSD薬物療法における漢方薬の有効性に関する研究」50万円(新規)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	5件
(2) シンポジウム発表数	0件	6件
(3) 学会座長回数	1件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	6件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際学会等開催・参加

4) 国際学会・会議等での座長

1. 杉山登志郎: 日米自閉症スペクトラム研究会議、日本(東京)、2011年12月

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 杉山登志郎: 子ども虐待と発達障害, 第21回日本小児看護学会, 2011年7月 さいたま市
2. 杉山登志郎: 学校現場における発達障害を持つ子どもたちへの対応, 第61回全国学校保健研究大会, 2011年10月, 静岡市
3. 杉山登志郎: 子どものこころ-健康と病気のはざま, 第58回日本学校保健学会, 2011年11月, 名古屋市
4. 杉山登志郎: 発達障害から発達凸凹へ, 第52回日本児童青年精神医学会総会, 2011年11月, 徳島市
5. 杉山登志郎: 発達障害と発達凸凹への対応, 第15回心理教育・家族教室ネットワーク研究集会, 2012年3月, 浜松市

3) シンポジウム発表

1. 杉山登志郎：小児思春期に認められる統合失調症様病態に関する臨床的検討，第 105 回日本小児精神神経学会，2011 年 6 月，新潟市
2. 杉山登志郎：青年期成人期の AD/HD，第 114 回日本小児科学会学術集会，2011 年 8 月，東京都
3. 山村淳一：被虐待児の父親に関する ADHD 調査，第 105 回日本小児精神神経学会，2011 年 6 月，新潟市
4. 山村淳一：浜松医科大学児童青年期精神医学講座のこころみ，第 106 回日本小児精神神経学会，2011 年 11 月，浜松市
5. 野村和代：鳥取県米子市における知的障害をともなう自閉症児の実数調査，第 53 回日本小児神経学会，2011 年 5 月，横浜市
6. 野村和代：地域の保健師・専門職に対するペアレント・トレーニングの実施運営の研修・コンサルテーションの効果について，第 105 回日本小児精神神経学会，2011 年 6 月，新潟市

4) 座長をした学会名

1. 杉山登志郎：第 105 回日本小児精神神経学会，2011 年 6 月，新潟市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

杉山登志郎 日本小児精神神経学会常務理事

杉山登志郎 日本発達障害学会理事

杉山登志郎 日本子どもの虐待防止学会監事

杉山登志郎 日本トラウマティック・ストレス学会理事

杉山登志郎 日本乳幼児医学・心理学会理事

杉山登志郎 日本心身医学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 23 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	0 件